

光といのち

第127号
— 報恩講 —
2020年11月10日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214
千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

Eメール info@syozenji.or.jp

住職 井上孝昌



報恩講

ご自宅のお内仏(お仏壇)で、時刻に合わせ、お勤めください。ユーチューブで本堂内の模様をライブ配信します。

速夜法要

十一月二十日(金)
十五時〜十六時

晨朝法要

十一月二十一日(土)
六時十五分〜四十五分

日中法要

十一月二十一日(土)
九時三十分〜十一時四十五分

今年度の報恩講志は不要です。昨年までの報恩講会計剰余金で賄います。

教えに遇いえた
喜びを
子や孫や友に確かに
手渡していかなければならない
池田勇諦

新型コロナウイルス感染症の影響で例年どおりの報恩講が出来なくなりました。

中止あるいは寺族と役員だけで行うことも検討しましたが、皆さんに報恩講を共に勤めましょうと毎年呼びかけてきましたし、世話人とご門徒が運営してきた伝統が途切れることを避けたい思いもありました。

そこで本年度は、ユーチューブを使い本堂とご自宅のお内仏(お仏壇)の前とで、それぞれがお勤めする形をとりました。パソコンやスマートフォンなどの扱いに不慣れな方が多いことも承知しております。本堂と同じ刻限にご自宅でお勤めする方法もあります。

ただ、できれば操作に慣れている方に手伝ってもらい、一緒にお勤めしていただきたい。

「迷惑をかけたくない」という気持ちもあるでしょうが、そのことが、仏教を次の世代に「手渡す」縁となることがあるかもしれないかもしれません。

池田勇諦先生の題字下「教えに遇いえた喜びを子や孫や友に確かに手渡していかなければな

らない」(『教行信証』に学ぶ)は、私たちへの促しです。

宗祖親鸞聖人が歩んだ念仏成仏の道を、私たちは報恩講で確認し伝えてきました。

その伝統を、例年とは形態が異なりますが、果たしてまいりましょう。

ご自宅での勤め方法は、見開きのページをご参照ください。



本堂内のお参りは、三十名以内とし、手指消毒・マスク着用・三密を避け行います。

当山僧侶、役員・当番地区門徒・世話人・月曜朝のお勤めの方々でお勤めします。

この他でお参りを希望する方は、事前にお申し出ください。定員内まで入堂していただけます。

次 第

逮夜 11月20日 (金) 15時~16時 同朋唱和

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』(赤本) 3~32ページ |
| ②念仏 | 同97ページ |
| ③和讃「弥陀成仏のこのかたは」から6首 | 同 98~100ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤『御俗称御文』拝読 | 別添 |
| ⑥法話 | 住職 |

晨朝 11月21日 (土) 6時15分~45分 同朋唱和

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』(赤本) 3~32ページ |
| ②念仏 | 同 97ページ |
| ③和讃「専修のひとをほむるには」から6首 | 同111~113ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤御文「御正忌」拝読 | 同 62~67ページ |
| ⑥法話 | 副住職 |

日中 11月21日 (土) 9時30分~11時45分 同朋唱和

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| ①正信偈 | 『真宗大谷派勤行集』(赤本) 3~32ページ |
| ②念仏 | 同 97ページ |
| ③和讃「弥陀大悲の誓願を」から6首 | 同117~119ページ |
| ④回向「願以此功德」 | 同101ページ |
| ⑤法話 | 了善寺住職 ととみ しん 師
百々海 真 師 |

今年、ご自宅で報恩講をお勤めしましょう！

1 ユーチューブを視聴するには

①パソコン・スマートフォンなどの端末装置で視聴します。

②勝善寺 (info@syozenji.or.jp) からメールでURLを皆さんの端末装置に送ります。

例えば、URLは、<https://youtu.be/Q9uelhmyU50> と表示されます。

※11月19日(木)までにURLを送付します。ただしスマートフォンの迷惑メールフィルターを解除していないと届かないことがあります。この場合は、メールフィルターの設定を「@syozenji.or.jp」からの受信を許可するようにしてください。わからない場合は、お手数ですがご使用のスマートフォンのサポートセンターなどにご相談ください。

③URLをクリックすると、勝善寺本堂内の映像が開きます。

2 準備

①勝善寺メールアドレスに、氏名と住所・電話番号を記し「お参りします。」とメールしてください。

②お内仏(お仏壇)の掃除をします。真鍮製の仏具は磨きます。

③前卓に打敷(うちしき)をかけ、仏花とお供物を調えます。

※御本尊阿弥陀如来像と御脇掛け九字十字の名号が無い方は、申し出てください。

本山からお手元に届くよう取り次ぎます。

3 お勤め

①正装し、念珠を持ち門徒章(肩衣)をかけます。

②『真宗大谷派勤行集』(赤本)を用意します。

③ユーチューブライブに合わせて、お勤めします。

④法話を聴聞します。

寺のことにはまったく関心がないがパソコンやスマートフォンを巧みに操作する若い世代の方々が、この報恩講がきっかけとなって仏教に関心を示すようなことがもし起こったら、それはそれは尊いことです。

それは、この見通しの立たない時代社会の「真のよりどころ」として、仏教が次の世代に相続されることですから。

浄土真宗入門

親鸞の教え

池田勇諦



あなたは本当に浄土真宗の
門に入っていますか?



浄土とは、念仏とは、往生とは…
わからなかったことは鮮明に輝かす。 京都・東本願寺出版 発行

的存在として無数の恩恵によって生きるものであるかぎり、「恩」は人間存在の根本的な事実であり、その恩恵に対する謝念の心が人倫の大本として重視されるのも当然でしょう。

近年「感謝」という言葉を非常によく耳にします。例えばテレビや新聞では、スポーツ、芸能、科学など様々な分野で素晴らしい記録や優れた成果をあげた人びとが、異口同音に

「皆さんのご支援、ご協力のたまものであり、感謝の気持ちで一杯です」などと熱く語られ、そのことが謙虚な美しい姿勢として歓迎されています。

しかし一方、私たちが教えと向きあうことによって気づくことは、一口に感謝と言っても、その感謝が私心に立つものであるかぎり、それが「恐れ」の裏返しとしてあるという動かぬ自己矛盾をかかえている事実です。

このことは、日本人の先祖観において典型的に見られます。「ご先祖」は一方では感謝の対象でありつつ、一方では恐れの対象という複合性をもっています。生活が順境であれば、「ご先祖のおかげ」と喜び、逆境に陥れば「先祖の祟りでは？」と怯えるのがそれでしょう。「人間は功利心に比例して恐れを抱く」と言われるゆえんです。そうした「恐れ」の自分に気づくとき、ほんと

うの感謝とは程遠い自分への悲しみに、初めてあたえられていくのが真の感謝ではないでしょうか。

こうした自我意識による「感謝」を問い返しているのが、「報恩」という言葉です。

親鸞聖人が「報恩」と言われるときの「恩」の根本は、そこに気づかせる真実のひかりである「南無阿彌陀仏」のはたらきそのものにあるのです。

そのことが、「恩徳讃」として広く知られているご和讃には、

如来大悲の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

ほねをくだきても謝すべし

とうたわれています。つまり親鸞聖人が言われる「恩徳」とは、私たちを真実の仏道に立たせる「如来大悲の恩徳」と、私にまでそれを届けてくださった念仏の伝統、「師主知識の恩徳」とであります。

この恩徳によって、初めて私を在らしめているもろもろの恩恵（それを仏教では父母の恩、人びとの恩、天地自然の恩の三つに統括して説いています）への真の感謝が成り立つのです。しかもそれは「よくぞ仏法に遇わせてくださったことよ」という、よろこびの一点に統一される謝念というべきでしょう。

（池田勇諦先生著『浄土真宗入門―親鸞の教え』東本願寺出版より）

「真宗に生きるとは「報恩」の生活である」と、この本にありました。報恩講をお迎えるにあたって、「報恩」ということを確かめておきたいと考え掲載しました。

真宗に生きるとは「報恩」の生活である

真宗との出遇いは、単に真宗がわかればよいというものではありません。なぜかわかった真宗を生きることが、そこに始まらねばならないからです。もしわかったことと、生きることで別であれば、それほど空疎で無意味なことはないでしょう。

すでに親鸞聖人が真宗に生きる生活を、「報恩」の語をもって明らかにされていることを、ここであらためて注目したいのです。

「恩」と言えば、もはや今日では忘れ去られたかに思える言葉ですが、人間が関係